

上尾 歴史散歩

231 上尾の古い地名を

■入会地「上尾原」の跡地を訪ねる ～上尾宿、上尾村、上尾下～

「ぐるっとくん」を愛宕神社で下車し百十メートルほど南下すると、交差点「上尾陸橋」となる。交差点を渡り六十メートル余り歩くと、左側にイチヨウの街路樹のある道路が見えてくる。

左折して二百七十メートルほど歩くと正面は上尾運動公園である。ここは元は「埼玉県農事試験場」の本場跡地で、街路樹のある道路と公園西の入り口にある三本のヒマラヤ杉がその名残である。

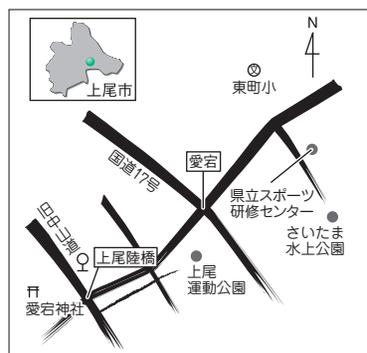
埼玉県農事試験場の本場は、昭和八（一九三三）年四月当時の浦和町から移転してきたもので、同二十五年には農業試験場と名称を変えている。試験場は同四十年九月、熊谷市久保島に移転され、跡地が上尾運動公園になっているので、わずか三十二年余りの短期間所在したことになる（『上尾市史第七巻』）。

農事試験場が移転してきた時の敷地面積は十町歩で、うち山林は四町三反余りという高率を占めている。敷地の一番は上尾町の大字上尾宿・上尾村・上尾下村にまたがっており、江戸時代からの入り組んだ土地保有の形態を示して



元埼玉県農事試験場本場跡地へ続く街路樹のある道路

いる。延宝六（一六七八）年の原市村・上尾村境界争論裁許絵図では、上尾下村の北方に広大な山林が描かれており、ここに「上尾原、入会」と記されている。「入会」は「入会」とも記し共有地のことであるが、絵図の記載からみると西方は愛宕三丁目の工場地帯から、東はさいたま水上公園の敷地まで続いていたと推定される。江戸時代の「上尾原」は共有地であるが、明治初期の資料を見ると既に山林は上尾宿・上尾村・上尾下村の三宿村に分割されている（前掲書・『上尾市史第三巻』・『武蔵国郡村誌』）。



幕末期の天保九（一八三八）年の「上尾宿絵図」を見ると、「上尾原」の近くに「甚兵衛山・愛宕山」、少し離れた位置に「日宮山」の三方所の「御林」が描かれている。「御林」は公有林のことであるが、「甚兵衛山」は現在の東町二丁目付近、「愛宕山」は愛宕二丁目付近、「日宮山」は本町一丁目付近に所在していたと推定される。

市の人口・世帯
(平成22年5月1日現在)

22万6,972人

男/11万3,541人

女/11万3,431人

※前月より121人増。

9万1,726世帯

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

6月は環境推進月間です。

地球温暖化防止のため、「○○ライフ」の実践を

(ヒントは8ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、「広報あげお」の感想を記入して、6月21日(月)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1

メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は7月号のこのコーナーで。前号の答えは「プラザ館」でした。ご応募ありがとうございました(応募者60人)。

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。